

## 民主主義を育てるために

1月13日(金)に神奈川県横浜市にある横浜創英中高等学校(以下 横浜創英)に、本校職員総勢5名で視察研修に行ってきました。

横浜創英の校長先生は工藤勇一氏。工藤校長は2014年～2020年3月まで東京都千代田区立麴町中学校で校長を務め、宿題廃止・定期テストの廃止・固定学級担任制廃止などの教育改革を実行した方で、『学校の「当たり前」をやめた。生徒も教師も変わる』など著書も多数執筆しており、近著である『子どもたちに民主主義を教えようー対立から合意を導く力を育む』では、学校で教える民主主義の間違いを鋭く追及しています。

「実は、民主主義の成熟を妨げてきたものに、これまで日本が良いとされてきたものがあります。具体的な言葉を挙げれば『思いやり』『無償の愛』『仲良くしましょう』『一致団結』『心をひとつに』『絆』・・・挙げればキリがありません。日本の学校でこれらの言葉を使わない教員はたぶんいないし、『心の教育』を否定する教員もいないでしょう。だって、教育学部で教えていますからね。僕以外に『心の教育』を真っ向から否定する人に会ったことがありません。『知・徳・体』という一見素敵に見えるこの目標が教育界を苦しめ、子どもも教員も保護者も不幸にしている大きな要因だと思います。『心の教育』の問題は、できもしないことをゴールに設定していることです。これがいろいろな歪を生むんです。先日もSNSである有名な方が『誰一人置き去りにしない学校をつくるためにはどうしたらいいか』と投稿されていたんですけど、その結論が『思いやりの心を持つこと』だったんです。そして案の定、その投稿に対して『いいね!』がいっぱいつくんですよ。現実的に考えてほしいのですが、社会を持続可能にするためには対立をどんどん解きほぐしていかなければなりませんね。対立を解きほぐすために何が重要かというのと、どんな対立があるかを明確にしないといけません。そして対立を平和的に解決するには、お互いの利益を損ねないためにはどうしたらよいか対話を重ねないといけません。こうしたプロセスを一切飛ばして、『思いやり』『美しい心』『愛』といったもので解決しようとするのは、あまりにも乱暴すぎます。そんなつかみどころのない話でお茶を濁すのではなく、ちゃんと現実を直視して、感情を切り分けて、理性的に物事を考える。これが『誰一人置き去りにしない社会』をつくる唯一の方法だと思っているんです。」(「子どもたちに民主主義を教えようー対立から合意を導く力を育む」から抜粋)

本校では、

- ① 恥ずかしがらずに自分が考えた様々な意見を出し合う。
- ② それにみんなが耳を傾ける。
- ③ どの部分に対立しているのかを明確にする。
- ④ 平和的に対話して合意形成を図り、意見の着地点をみんなで考える。

これらを繰り返し行うことで子ども達に民主主義を育てようとしています。

成熟した民主主義国家の構築のため、学校現場でできることは何かを常に問い、「**自分で考え、判断し、決定し、行動する**」そんな生徒を育てていきたいと思っています。

(2月13日更新)